



田植え作業等で注意したいポイント

適期田植えによる品質向上

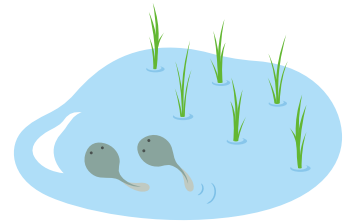
- 田植えは必要とする株数を確保し、初期生育を安定させ分けつしやすい条件をつくるのが大切です。降霜の危険性が高いうちは植えないようにしましょう。また近年は水稻の生育期間中の気温が高く、生育が早まっている傾向が強くなっています。出穂期が高温時期と重なることによる白未熟米等の品質低下を防止するため適期田植えを遵守しましょう。
- 田植え時には栽植密度や植付本数、苗の植付深さに注意しましょう。植付本数は1株当たり3~4本植えにし、太くしっかりとした稲を作りましょう。植付本数が多い稲は分けつが多くなり株は立派に見えますが、1本の茎が細く穂が小さくなりやすくなる上に、倒伏しやすくなります。植付深さは根の発生位置が3cm程度となっているかを目安にしましょう。

代かきは丁寧に、畦の管理は確実に

- 田面の凹凸がなくなり均平になるように、耕起・代かきは丁寧に行いましょう。
- 漏水しやすい場合は、あぜ波板やシートで補強しましょう。

水管理をしっかりと

- 水口・水尻をしっかりと止めて4~5cm程度の水深を確保しましょう。
- 除草剤散布後7日間は落水・かけ流しせず、入水もできる限り控えましょう。
- 入水が必要な場合は、ゆるやかに入水しましょう。
- 初中期一発除草剤の抑草期間は概ね30日~40日間ありますが、漏水等で田面が露出すると処理層の分解が早まり抑草期間が短くなりますので注意しましょう。



農薬は適期に散布

- 雑草葉齢に合わせて処理適期に散布しましょう。
- 表層剥離やアオミドロの発生する前に散布しましょう（ジャンボ剤・フロアブル剤）

雑草が多い圃場では体系処理がおすすめ

- 毎年雑草が問題になる圃場や、代かきから田植えまでの期間が長くなる場合は **初期剤+中期剤** や **一発処理剤+後期剤** の体系処理を行いましょう。

除草剤（ジャンボ剤、フロアブル剤）について

- 葉がうまく広がるように、水をたっぷり張りましょう。（水深5~7cm）
- 表層剥離、アオミドロが発生した場合は、雨上がりなど藻が落ち着いてから散布しましょう。
- 水田の水が偏るほどの強風が予想される場合は散布を避けましょう。



田植え後の水管理

- 田植え直後、苗が活着するまでは、苗の葉先が見えるくらいの深水を維持して苗を保護しましょう。新しい葉が展開してきたら、活着し始めているため、2~3cm程度の浅水管理にして水温や地温の上昇を図り、分けつを促進させ莖数の確保に努めましょう。

田干し（ガス抜き）

- 基肥をしっかり入れたはずなのに葉色が薄い場合や、葉先が黄色くなっている場合は、土の中にガスが溜まっていることにより根の伸長が阻害されていることが考えられます。葉色が薄い場合でもむやみに追肥せずに、軽い田干し（1~2日間落水）を行いましょう。ガスが抜けると根に酸素が供給され、根が地中深く伸びるようになります。活着後の深水は、水温の上昇を遅くするため分けつが遅れ、軟弱徒長を招くために注意しましょう。